

2 かぎりあるエネルギー資源



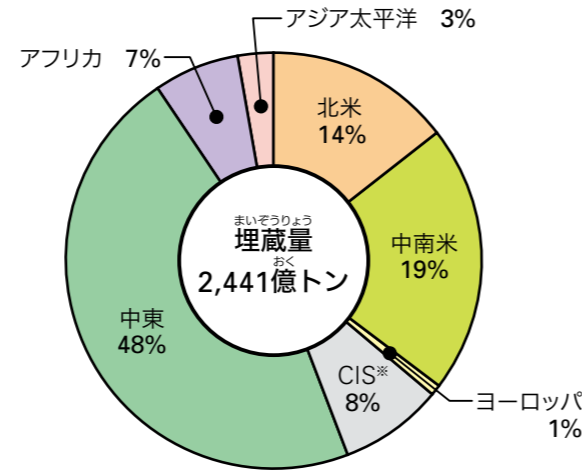
地球にある資源の量は？

エネルギー資源には
かぎりがあるって
知っているかな？

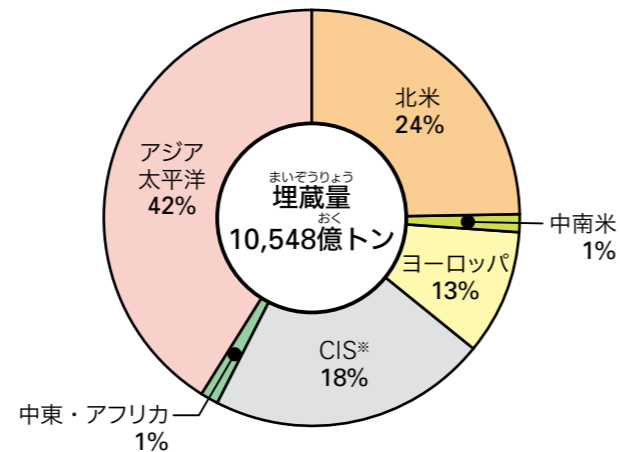
わたしたちが使っているエネルギー資源は地球が長い年月をかけて作った貴重な資源だ。石油、天然ガス、石炭は動物や植物などの死がい長い年月をかけて変化してきたので「化石燃料」とよばれている。人間が新しく作り出すことはできない資源なんだ。

※ CIS (独立国家共同体) は旧ソビエト連邦の共和国で構成される国家連合体。

◎石油の埋蔵量(2018年末)



◎石炭の埋蔵量(2018年末)



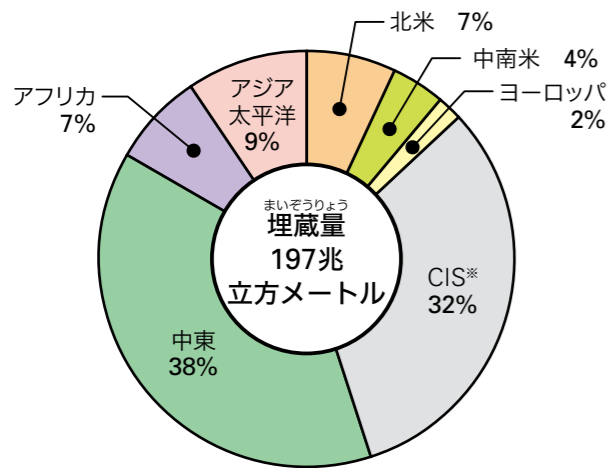
(出所) 石油、天然ガス、石炭はBP「Statistical Review of World Energy 2019」を基に作成、ウランはOECD/NEA-IAEA「Uranium 2016: Resources, Production and Demand」を基に作成

可採埋蔵量とは？

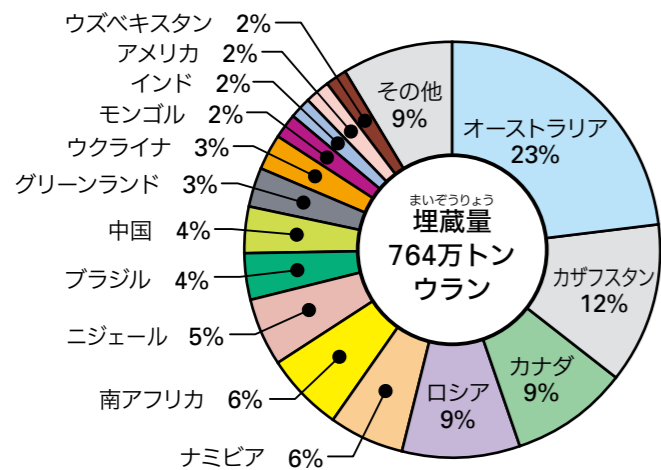
正確には「確認可採埋蔵量」という。すでに発見されていて採掘できるエネルギー資源の量のこと。「確認可採埋蔵量」を年間の生産量で割ると、あと何年使い続けられるかの目安になる「可採年数」が分かる。

エネルギー資源は新たな資源が見つかったり採掘技術が進歩したりするため、可採年数がのびることが多い。しかし、100年後、200年後を考えると、限られた資源を大切に活用していかなければならない。

◎天然ガスの埋蔵量(2018年末)



◎ウランの埋蔵量(2014年末)



※260米ドル/kgU以下のコストで回収可能な埋蔵量。

ふえ続ける世界のエネルギー消費量

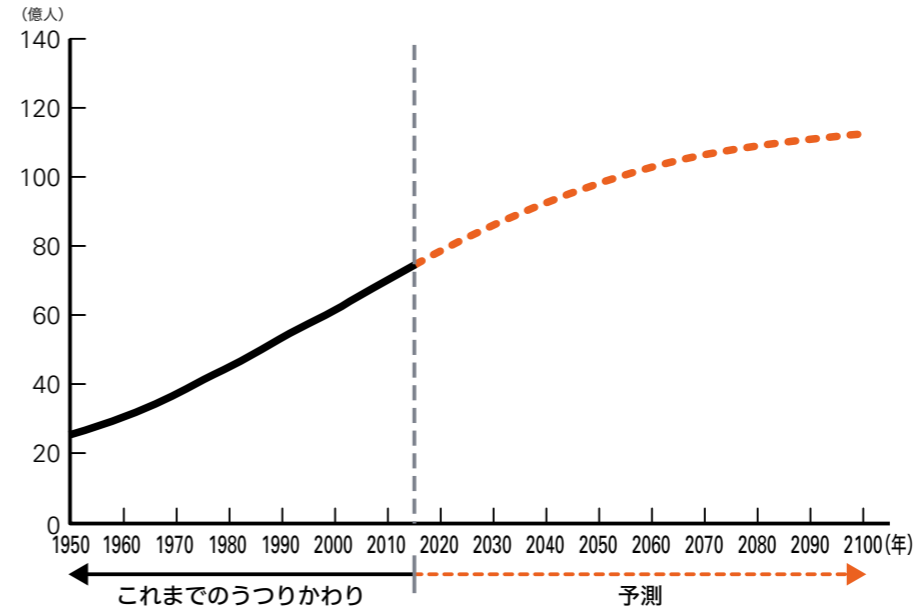
6～9ページで見たように、日本や世界の国々は経済成長とともにたくさんのエネルギーを消費し、今日の社会や生活がなりたっている。

近年、世界のエネルギー消費量がふえたもうひとつの理由は、人口増加である。2017年の

世界の人口は76億人だったが、2030年までに86億人、2050年に98億人、そして2100年には112億人にふえると予測されている。

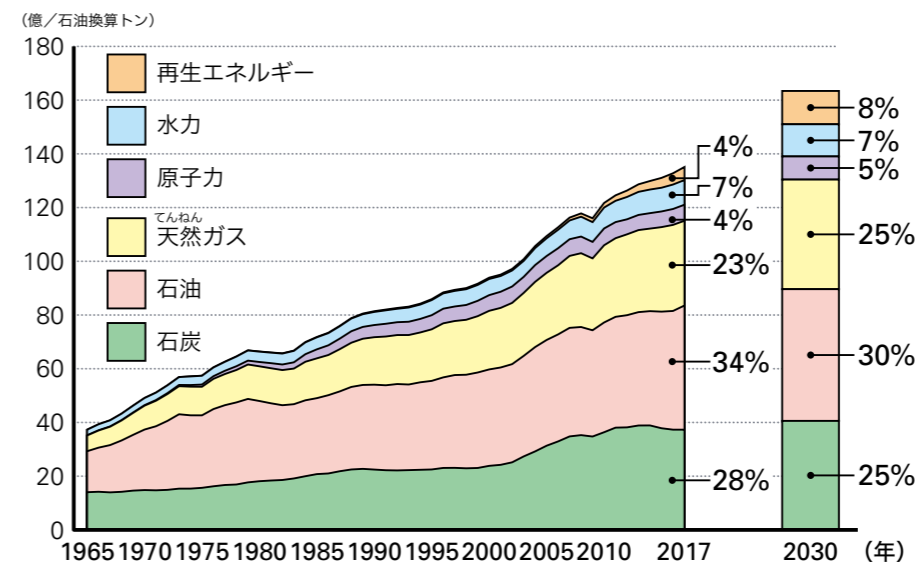
経済成長と人口増加によって世界のエネルギー消費量はますますふえると考えられている。

◎世界人口のうつりかわりと予測



(出所) 国際連合「世界人口予測・2017年改訂版 (United Nations (2017). World Population Prospects: The 2017 Revision.)」を基に作成

◎世界のエネルギー消費量のうつりかわりと予測



※再生エネルギーは風力、太陽光、地熱、バイオマス等の再生可能エネルギー発電。
※パーセントは小数点以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。
(出所) 実績値はBP「Statistical review of world energy 2017」、予測はBP「Statistical review of world energy 2017」を基に作成

エネルギー資源には
かぎりがあるから
世界の人たちと分け合って
使わないといけね。



ポイント
世界のエネルギー消費の変化は日本のエネルギーの安定供給にも大きな影響がある。

考えてみよう
世界のエネルギー消費量がふえると日本にどのような影響があるのか考えてみよう。